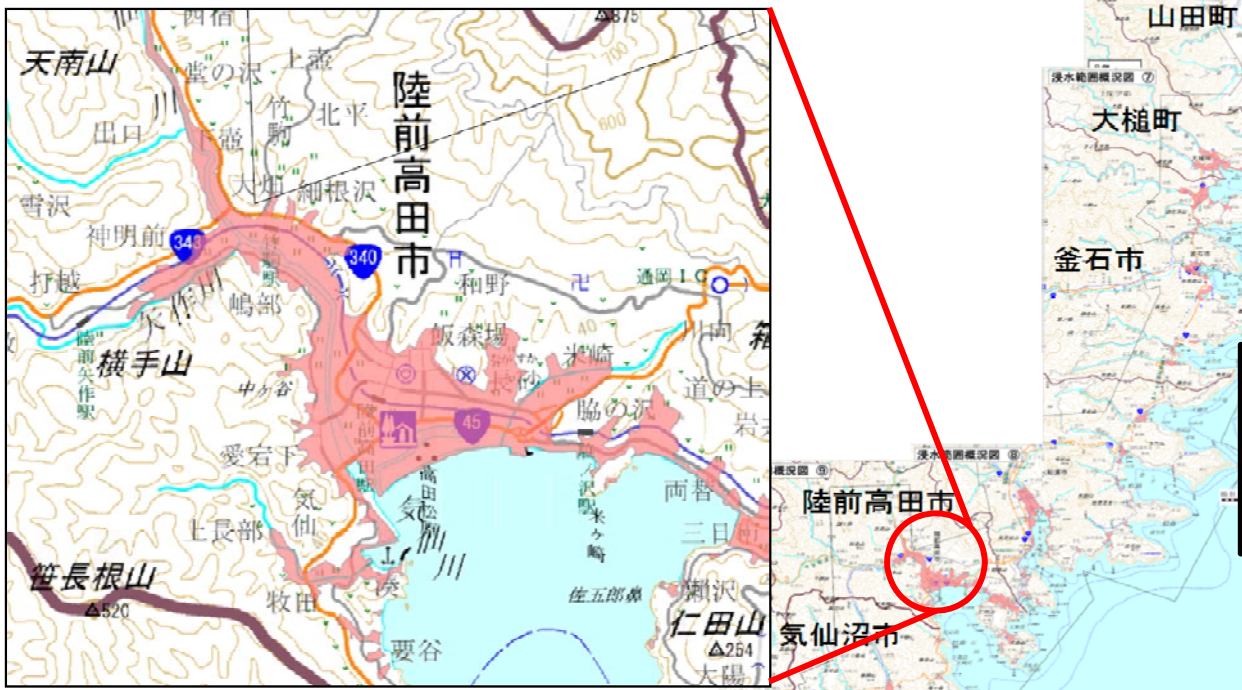


東日本大震災の被災状況と
復旧復興について①

津波による被害の状況

○東北・関東6県で535km²が津波により浸水
 (うち、用途地域の浸水面積119km²(用途地域の13%))^{※1}
 約115,000戸が全壊、死者約15,800人、行方不明者約4,400人^{※2}

※1: 平成23年8月4日都市局記者発表、
 ※2: 警察庁緊急災害警備本部の平成23年東北地方太平洋沖地震等による被害状況(平成23年9月1日現在)より作成



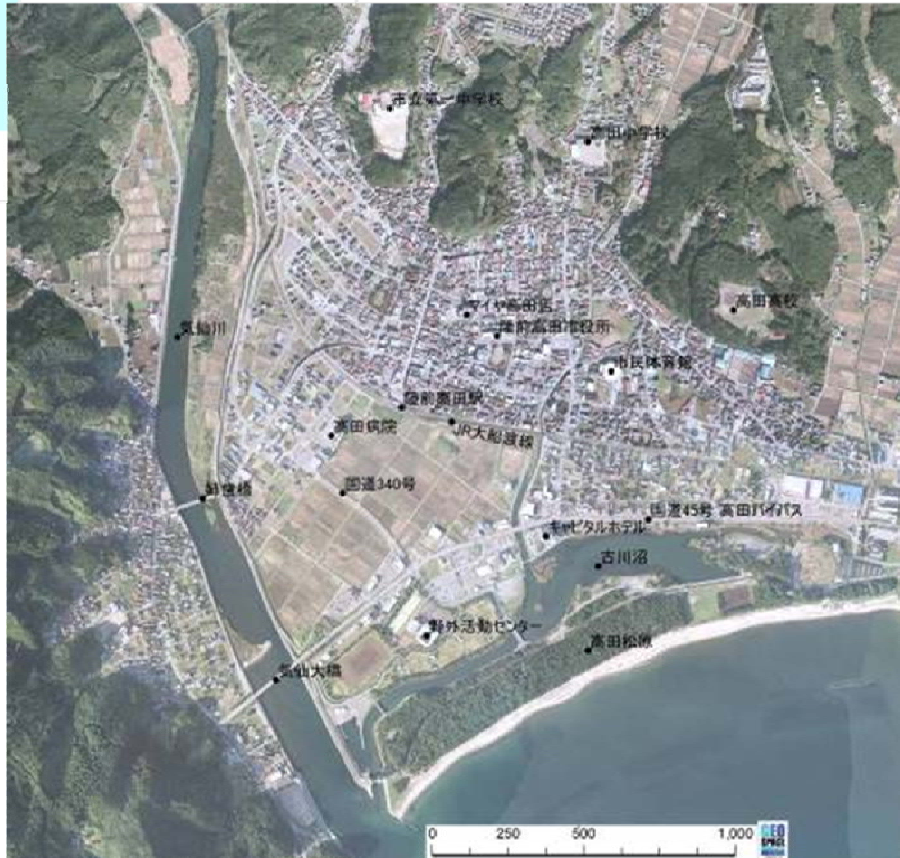
○陸前高田市では約13km²が浸水^{※1}
 3,159戸が全壊、
 死者1,487人、行方不明者264人^{※3}

※1: 平成23年8月4日都市局記者発表、
 ※3: 陸前高田市HPより作成

最大浸水した範囲



陸前高田市の被災状況



被災前(2010.10.18,29)



被災後(2011.3.13)

第4回東日本大震災復興構想会議(平成23年5月10日)より作成

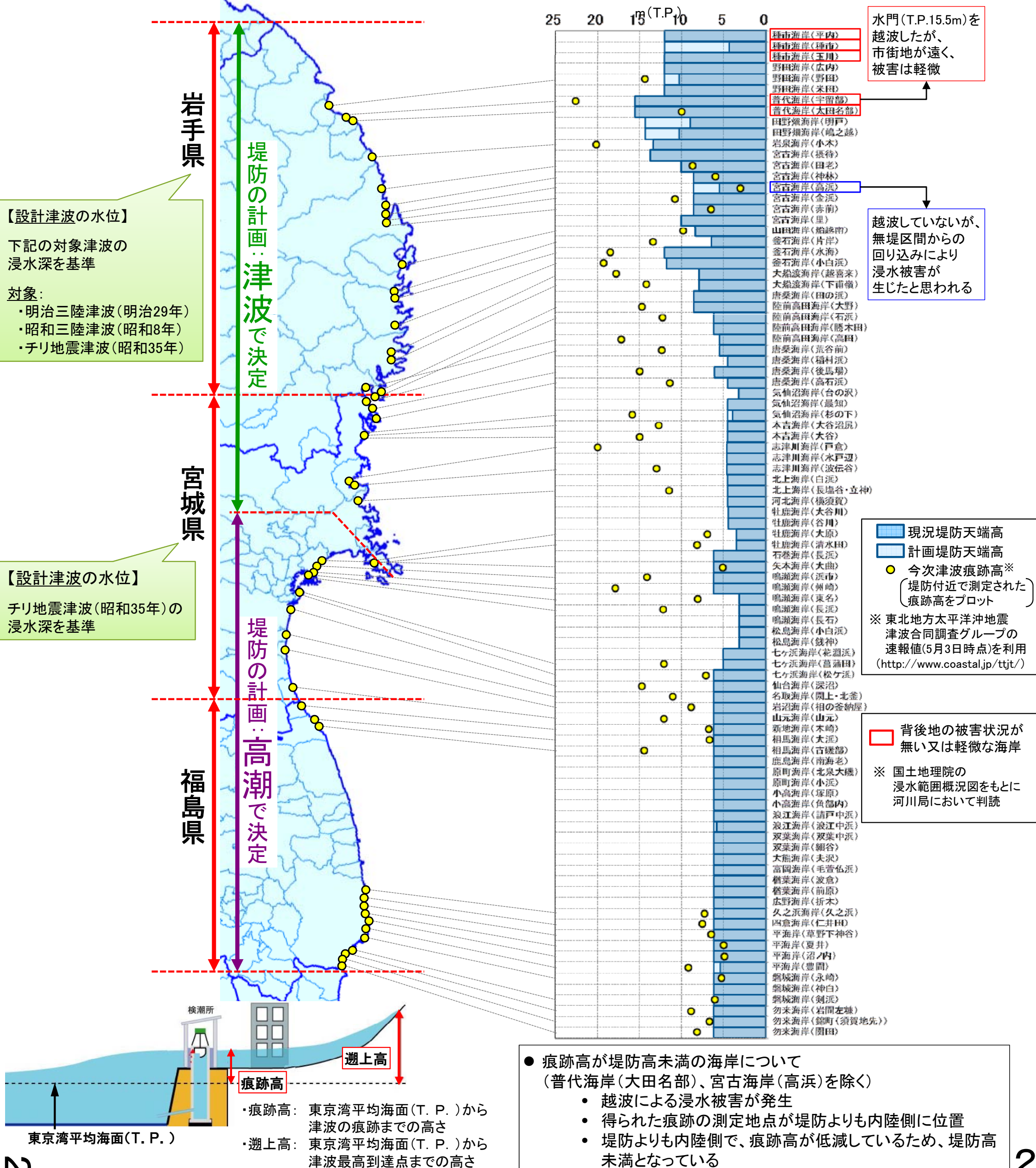
国土地理院 浸水範囲概況図より作成

従来の計画堤防天端高※の設定根拠と今回の津波による痕跡の高さ

(岩手県・宮城県・福島県の代表的な海岸を抽出して作図)

※ 計画堤防天端高の基本的な考え方：以下のいずれかに掲げる値に、堤防の背後地の状況等を考慮して必要と認められる値を加えた値以上とする。

- 設計高潮位に設計波のうちあげ高を加えた値
- 設計高潮位の時の設計波により越波する海水の量を十分に減少させるために必要な値
- 設計津波の水位

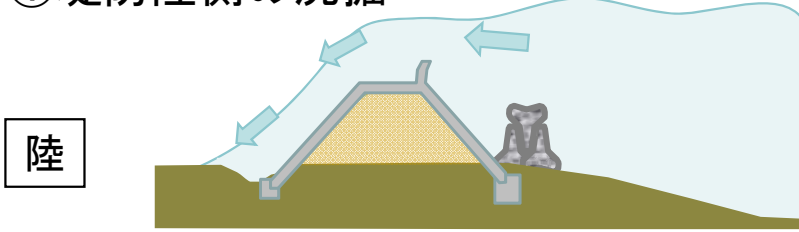


海岸堤防の被災状況と考えられる被災過程(現在調査中)

○岩手県、宮城県、福島県の海岸堤防延長300kmのうち、約190kmで全壊・半壊

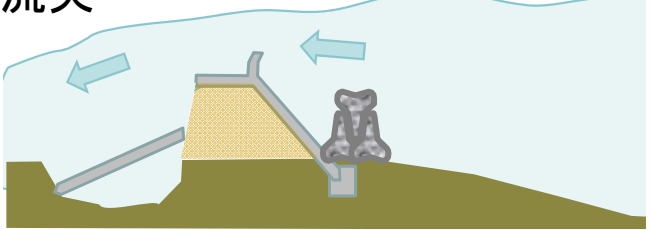
押し波による被災

①堤防陸側の洗掘



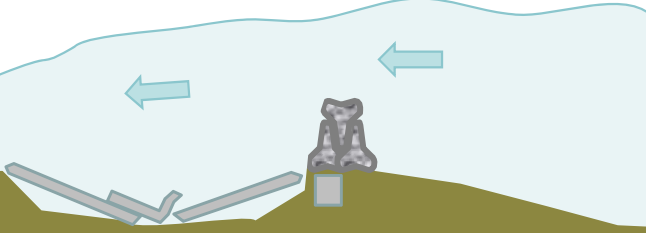
②裏法被覆工や堤体土の流失

さらに変形が進んだ場合



③天端や表法の崩壊

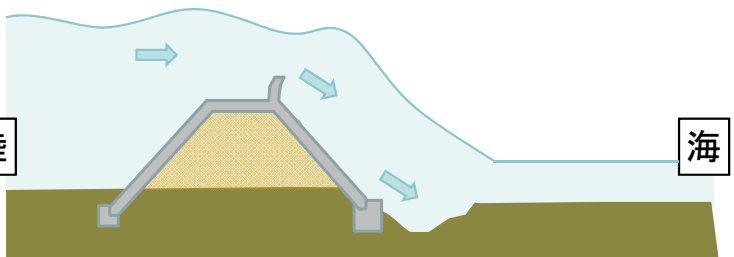
さらに変形が進んだ場合



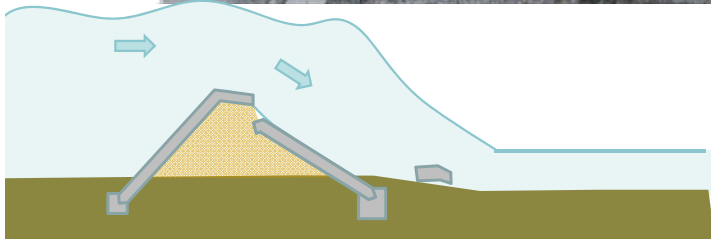
引き波による被災

【岸沖方向で見た場合】

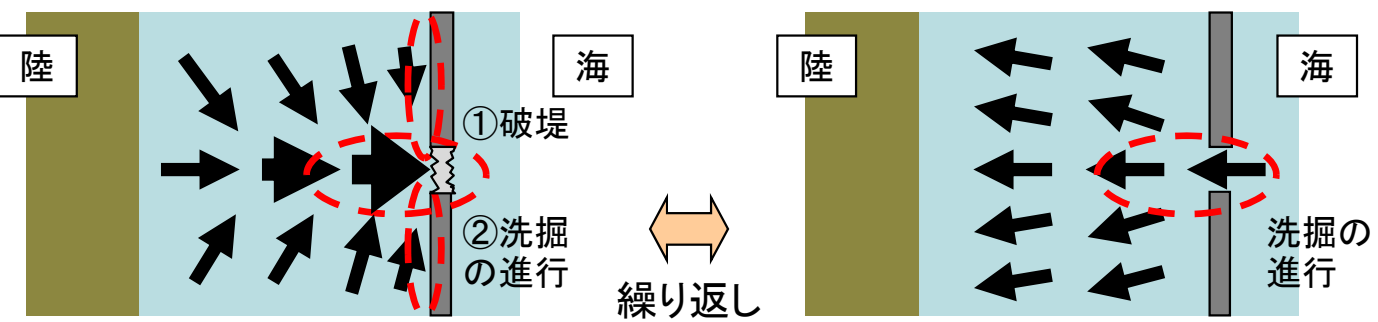
○法先の洗掘



○表法被覆工の流失



【面的に見た場合】



堤防の陸側に大きな洗掘溝。松林の一部は残存



地形が大きく改変

